

由利本荘市における土地利用の変遷の比較

システム科学技術学部 建築環境システム学科

1年 首藤 沙英

1年 伊藤 薫美

1年 加藤 光莉

1年 倉田 野乃華

1年 佐藤 希

指導教員 システム科学技術学部 建築環境システム学科

教授 苅谷 哲朗

1. 目的

由利本荘市にはかつて亀田藩、矢島藩、本荘藩の3つの藩が存在し、市内には地域ごとに様々な特色がみられる。そこで現地調査や古地図を用いた文献調査を行い、これらの地域ごとの特徴について現代までの土地利用の変遷を明らかにすることを研究の目的とした。

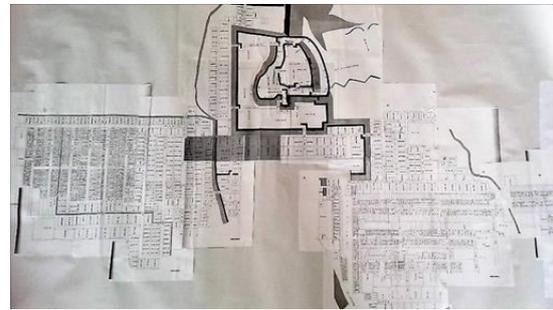


図1 本荘城下絵図

1613-1622年頃作成

2. 研究内容の概要

2種類の方法を用いて調査を行った。

1つ目は、現地調査である。本荘市街地、亀田地域、矢島地域でまち歩きを実施し、まち並みの特徴について調査を行った。

2つ目は、文献調査である。藩政時代から現在までの11枚の地図を用いて特徴の比較を行い、土地利用の移り変わりについて調査を行った。また、地域全体の変遷に重点をおいて研究を行った。



図2 本荘城下絵図（享保図）

18世紀初期頃作成

3. 研究結果・考察

本荘、亀田、矢島地域について現地調査文献調査について以下の通りにまとめる。考察では、班全員がそれぞれ意見を出し合い、類似点、差異点の2つにわけてまとめる。図3の赤で囲った場所は、現地調査で実際に調査した場所を示す。



図3 現地調査対象地区

3-1 本荘地域

3-1-1 現地調査

本荘公園周辺に公共施設が多く建てられており、尾崎から鍛冶町にかけての旧城下町は大きな建物が少なく、個人経営の商店が立ち並んでいた。また、本荘公園周辺の小学校やマンションの屋根が瓦になっているなど、城址に合う落ち着いた雰囲気で統一されていた。

3-1-2 文献調査

現在の地図を含めた7枚の地図より調査を行った。藩政時代に作成された地図では真っ直ぐな道路や規則的に配置された家が多く見られた。また、尾崎から鍛冶町にかけての旧城下町は平成9年から施行された「由利本荘都市計画事業」と「本荘中央地区都市区画整理事業」により建物の密集が改善され、公園や緑地などのコミュニティ空間が増加したと考えられる。

土地利用については、下図のように上記の地図をもとに階層構造を略図で示した。略図より、城を中心に上級武士、中級武士、下級武士の武家屋敷が取り囲むように配置されていることがわかる。

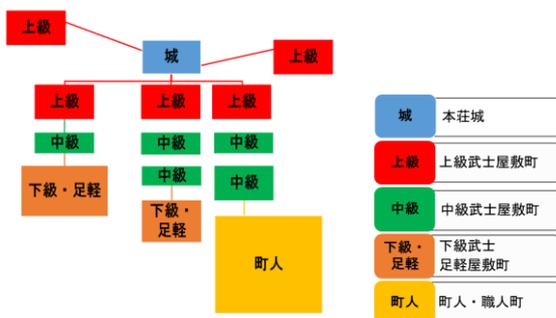


図4 本荘城下町の階層構造図

寺社は城周辺や川沿いに建てられているものが多くみられた。これは子吉川の

向こう側が亀田藩の領地であったため、亀田藩からの侵攻に備えて城を守る形で建てられたためと考えられる。

3-1-3 類似点

かつて権力者主体のまちだったため規則的な地割が見られたが、現代では事業による施行で道路や家が変わり住民主体のまちに変化したと考えられる点である。また、本荘公園周辺に公共施設が多く建てられたことで、現在も藩政時代と同様に本荘公園周辺がまちの中心として機能していると考えられることができる。

3-1-4 差異点

挙げられなかった。

3-2 亀田地域

3-2-1 現地調査

平坦な地形で狭い道路が多く、住居のほとんどが通りに面して建てられていた。また、平屋建てが多く屋根の形や外観など本荘地域と似た住居が多数見られた。



図5 亀田地域の様子

3-2-2 文献調査

現在の地図を含めた2枚の地図を用いて調査を行った。明治時代の地

図では直線的な道路が多く、一つ一つの家屋の面積が大きいことが読み取れた。現在のまちでも直線的な道路を見ることができ、国登録重要文化財に登録されるような大きい家や石造りの郵便局などの古い建物が今も建っていることから、区画は変化していないと考える。



図6 亀田市街並図
1894年（明治27年）



図7 矢島地域の様子

3-3-2 文献調査

現在の地図を含めた2枚の地図を用いて調査を行った。藩政時代の地図では全体的に曲がった道路や通りに沿った家の配置が読み取れた。この配置は現在のまちでも見ることができたため、区画は変化していないように感じた。

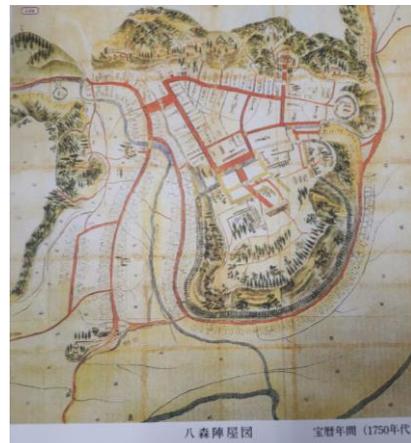


図8 八森陣屋図
1750年代作成

3-2-3 類似点

城と城下町の距離が離れており、現在のまちの中心は旧城下町であるという点である。

3-2-4 差異点

挙げられなかった。

3-3 矢島地域

3-3-1 現地調査

まち全体が山の斜面につくられているため、傾斜があり高低差の激しい地形が特徴的であった。また、傾斜を生かしてつくられた水路が数多く見られた。駅から少し離れた所に住宅が立ち並んでおり、新しい家が多く見られた。

3-3-3 類似点

高低差が激しい地形であるが城と城下町の距離が近かったため、現在小学校や総合支所などが置かれ、まちの中心として重要な役割を担っているという点である。

3-3-4 差異点

水路が何のために作られたのかという点である。農耕や生活用水などの利用にうまく活用するために水路に沿ったまちづくりが行われたという意見や、大雨が降った際に雨水をまちにため込まないようにするためのシステムとして作られたのではないかという意見が出された。

3-4 本荘, 亀田, 矢島地域ごとの比較

3-4-1 類似点

本荘と矢島では城と城下町が近く、階級ごとの屋敷町が城周辺につくられていた点である。そして、城跡に公共施設が建てられていることから現在でもまちの中心として重要視されていると考えられる

3-4-2 差異点

亀田, 矢島地域では藩政時代の区画が見られるが, 本荘地域では見ることができなかった点である。本荘地域では, 他の地域に比べて人口が多く, かつては防災力の低下, コミュニティスペースの確保が困難であるなどの問題を抱えていた。これらの問題を解決し市の中心部としての機能を果たすために区画整理が行われたと考えられる。

4. 結果

今回の研究を通して, 本荘, 亀田, 矢島地域の建物や街並みの特徴について学ぶことができた。また, 古地図から読み取りを行うことで現代の地図からでは気づくことのできない新たな発見があり, 古地図の重要性を実感した。今回は地域全体に重点をおいて研究を行ったため,

次回研究する場合は当時の人々の生活の様子などについても調査を行いたい。また, 亀田, 矢島地域の古地図を見つけることが困難であったため, 次に研究するときは可能な限り多くの資料を用いて研究を行いたい。今後は研究を通して学んだことを私たちの身近な問題解決に生かしていきたい。

<参考文献>

- ・本庄市著, 本荘市史 史料編 I 上, 昭和 59 年 3 月 30 日発行
- ・本庄市著, 本荘市史 通史編 II, 平成 6 年 8 月 1 日発行
- ・前川盛太郎著, 岩城町史, 平成 8 年 3 月 31 日発行
- ・本庄市著, 本荘市史 史料編 VI, 平成 2 年 3 月 31 日発行
- ・矢島町教育委員会著, 矢島町の文化財, 平成 12 年 3 月発行
- ・秋田県由利本荘市著, 由利本荘市都市計画事業 本荘中央地区土地区画整理事業 事業記念誌, 平成 26 年 6 月発行
- ・Google マップ, <https://www.google.co.jp/maps>, 平成 30 年 2 月 16 日 15 時 45 分アクセス
- ・秋田民族芸能アーカイブス, http://www.akita-minzoku-geino.jp/search_area_result?area=yurihonjyo 平成 30 年 3 月 26 日 16 時 05 分アクセス